

平成 31 年度 第 1 回 学校運営協議会

校長		副校長		教頭	
----	--	-----	--	----	--

開催日時	平成 31 年 4 月 25 日 (木) 18 時 10 分 ~ 20 時 30 分				
場 所	秦野曾屋高等学校 東会議室				
司 会	副校長・三辻委員	記 録	家本・大谷・齋藤		
欠 席 者	小山田 幸弘 (秦野市立本町中学校長) 小松 昭一 (秦野市社会福祉協議会事務局長) 鳥海 靖史 (本校同窓会長) 諸星 孝 (本校 PTA 会長)				

1 開会挨拶 ・ 副校長による開会挨拶  2 委嘱状交付 ・ 橋本前委員に代わり秦野市本町地区自治会連合会会長の佐野委員への委嘱状の交付  3 会長挨拶 ・ 三辻委員による挨拶 ・ 今年度より全県で学校運営協議会が設置されたが、本校は他の学校をリードするような取組をしているので、全委員で学校教育を前進させたいとのこと  4 学校運営協議会委員及び本校職員の紹介 (自己紹介) ・ 各委員の自己紹介  5 協議 (1) 学校の教育計画に関して・平成 31 年度の学校目標・SOYA アクション・プラン 2019 (資料 2・3・4) ・ 校長よりアクション・プランと学校目標について説明 ・ 以下、質疑応答	
望月委員	「主体的・対話的で深い学び」をはじめとした教育用語が委員全体にとって馴染みがなく説明がほしい。また、資料 2 について具体的にどのような意図があって盛り込んだ文言なのか、説明がほしい。
校長	「主体的・対話的で深い学び」とは新しい学びの手法を指す。生徒が自ら動き・考え・協力していく授業の取組み方である。以前はアクティブラーニングという呼称もされていた。資料 2 について、「礼節」に関しては「あいさつ声かけ運動」に対応している。進路ニーズに合わせた進路選択により「行ける学校」から「行きたい学校」にシフトしていけるような進路指導を行いたい。一人一ボランティアへの声かけは昨年度からの引き続きの課題になっている。地域との連携については、地域に根差した防災教育ができないか思案しているため盛り込んだ。

中山委員	<p>「自己肯定感」というワードは今や一般企業でも使われている。本校ではそれをいち早く使いだしたため、先進的な取組をしているといえる。では、本校生徒の心をどう育み自己肯定感を伸ばしていくのが焦点となるのではないかな。</p> <p>「ソフトパワー」をいうキーワードがある。ソフトパワーとは設備面でのリソースではなく、教職員や運営するイベントといった普段からの取組を指す運営側の人的資源のことを指す。資料4の掲げる目標について、この学校のソフトパワーをどう活用しているのかを具体的に、例えば SOYA フェスタの取組や屋外掲示板の使い方などといったようなものをアクション・プランに盛り込んでいく必要があると考える。</p> <p>R-PDCA サイクルを回していくので、できなかったことはできなかったことで、なぜできなかったのかを明らかにすればよいと思う。また、アクティブ・ラーニングは方法であり目標ではないので、「何を身に付けるのか」を具体的にすることが大切だと考える。教育用語は抽象的でわかりにくく、詳しく調べないとわからないことが多いので、もう一歩踏み出したアクション・プランを作成してほしい。</p>
校長	<p>具体的な文言については、資料4と本校のグランドデザインとのすり合わせで行っていきたい。</p>
中山委員	<p>わかりやすくなるような工夫を凝らして、もう少し具体的な事柄を書いてほしい。</p> <p>また、ボランティア・バンクについて、職員が多忙化してしまっは元も子もないので、秦野市社会福祉協議会と協力する等、外部リソースを有効に活用するのはどうだろうか。</p>
三辻委員	<p>本校のアクション・プランという取組は、他校と比較すれば先進的な取組だと思うが、もっと踏み込んだ内容を盛り込んでもよいのではないかな。つまり、「推進方法」に具体的な文言を追記してみてもどうか。</p>
教頭	<p>昨年度は、地域防災についてニーズがあったので、アクション・プランに盛り込んだ。</p>
中山委員	<p>「推進方法」に対し、重みづけをするのはどうだろうか。すべての取組に全力を出すのは大変だろうから。</p>
三辻委員	<p>アクション・プランの取組が大切だと思う。今年度の活動を行う上でアクション・プランの改良のため、良いところ（曾屋の魅力）を見出して盛り込んでみてはどうだろうか。</p>
校長	<p>昨年度においては、達成できたことも取り組もうとしてできなかったこともある。前年度の踏襲になっている部分が多い。</p>
三辻委員	<p>本校の魅力（ソフトパワー）をどのように発信していくかが焦点となるのではないだろうか。</p>
中山委員	<p>時間がかかっては R-PDCA サイクルを早く回すことができないので、防災教育については東日本大震災の大川小学校の件をモデルケースにしてみてもどうか。具体化する視点やインパクトのあるものがほしい。</p>
望月委員	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実践について、「対話的」の部分が「生徒対生徒」「生徒対教員」「生徒対地域」といった対話をする相手を拡大・焦点化して思案して行ってほしい。</p>

- ・ 神奈川県教育委員会に提出する書式についてはこのまま承認し、アクション・プランについては書式変更や盛り込み方について工夫を凝らしていく方向で今後を持ち越す。

(2) 教育課程の編成に関して (資料5)

- ・ 教頭より本校の教育課程と新学習指導要領について説明
  - 現3学年と現1・2学年のカリキュラムの違いについての説明
  - 現1学年の「総合的な探究の時間」についての説明
- ・ 以下、質疑応答

三辻委員	カリキュラム編成について、意見集約は行ったか。学校内の事情と学校外の事情を合わせて編成していく必要があるだろう。
教頭	平成34年度の新学習指導要領に向けて学校内で教育課程検討プロジェクト委員会で編成していく。

(3) 学校組織の編成に関して (資料6)

- ・ 副校長より学校組織について説明
- ・ 以下質疑応答

三辻委員	資料6について、グループの業務内容一覧が表記されているが、この中には入学者選抜委員やカリキュラム検討委員があるはずで、各種委員会の記述がないのはなぜか。
副校長	指摘のあった委員会はグループ業務に位置付ける方向で調整することになっている。本校では資料6にまだ盛り込んでいないのが実情である。

(4) 学校予算の執行に関して (資料7)

- ・ 事務長より学校予算の執行について説明
- ・ 「特力ある高校づくり推進事業費」の使い道は調査中

(5) 学校施設及び設備等の管理及び整備に関して (資料8)

- ・ 事務長より学校施設及び設備について説明
- ・ 今年度は特別教室に空調機器を設置するための調査が入る予定

6 報告及び意見交換

(1) 各グループの取組について (資料9)

- ・ 学習支援グループ
  - 齋藤教諭より、新学習指導要領や本校で行っている授業実践、授業改善について説明
  - 以下、質疑応答

望月委員	昨年度行われた、「授業互見月間」について具体的に知りたい。
齋藤教諭	ベテラン・若手を問わずお互いの授業を見合うことを目的とする期間である。ベテラン教諭のノウハウや若手教諭のインスピレーションといったように教科・科目だけでなく、年齢層によっても違いがあり、それらを見合うことで学校全体の授業の改善を目指す。今年度も授業互見月間は行う予定だが、日程については調整中である。

- ・ 生徒会支援グループ
  - 関口教諭より、本校の委員会や部活動の活性化について説明
  - 部活動については、入部数に対する目標数値に年々逆行しているのが課題

➤ 以下、質疑応答

望月委員	平成 30 年度の日本史研究部の表彰に「櫻井徳太郎賞」があるが、どのような研究を行い、受賞したのか知りたい。
関口教諭	現 3 学年の部員が湘南馬車鉄道について調べたことにより、受賞した。実際に湘南馬車鉄道があった地域を歩き、調べるフィールドワークを行った。生徒の自己肯定感の向上につながったと思う。

- ・ 生活指導グループ
  - 久保田総括教諭より、本校の生活指導について説明
  - 挨拶の励行について、今年度は「おはよう運動」を行う生徒を部活動から一般生徒に波及させたいと考えている。
  - 今年度はすでに 1 回目の「おはよう運動」を体育祭の団長・副団長の生徒が行った。
- ・ 進路支援グループ
  - 綿引総括教諭より、本校の進路指導について説明
  - 今年度は有志で行っていた放課後の進学者向け補習に進路支援グループが後押しすることになり、一層の充実を目指す。
  - 四年制大学への進学率が減少した背景には、大学の入学定員の厳格化や将来就きたい職業の明確化等、生徒の層の変化もみられる。
  - 今後は A0 入試や推薦入試での合格も視野に入れた指導に力を入れたい。
- ・ 広報特色・情報グループ
  - 大町総括教諭より、本校の特色教育について説明
  - 今年度は夏季福祉体験学習への参加人数が増加する見通しである。
- ・ 管理運営グループ
  - 笹尾総括教諭より、本校の防災教育・PTA 活動について説明

(2) 事務局の今後の取組について

- ・ 教頭より 3 本の柱「SOYA フェスタ 2019」「ボランティア・バンク」「おはよう運動」について説明
- ・ GAP に関しては実施回数も含め検討する。
- ・ 以下、質疑応答

内藤委員	教員の労働時間について、働き方改革の取組はどのようになっているのか。例えば民間企業であれば労働時間を概ね 8 時間程度に抑えるような流れになっているが、教員はどうか
校長	公務員なので 7 時間 45 分の労働時間であるが、部活動やグループ業務により労働時間をおさえるまでにはいっていない。放課後や土日の部活動といった特殊な業務もあり、教員の仕事には労働時間では測れない特殊性がある。

7 その他

- ・ 別添資料「学校運営協議会活動状況報告書（平成 30 年度）」について承認
- ・ 今後の学校運営協議会の開催回数を 4 回から 3 回に変更する件について、以下、質疑応答

中山委員	回数ありきで学校運営協議会の回数を決めるのではなく、会議をする議題があるから学校運営協議会が行われる。また、情報の共有が大切だと考える。本提案は、学校内の事情が把握できず具体性に欠けるため反対である。
望月委員	3回の開催は少ないと思うので、4回にしてほしい。また、学校運営協議会に参加することで、委員としての当事者意識の醸成につながると思う。
校長	必要な連絡はメールや電話等を行うことを前提として、議論の遡上にのせた。昨年度の事例で言えば、評価部会については学校内外の多忙、委員の報酬金の有無により、メール等のやりとりで開催しており、召集をためらわれるような部分もあった。
中山委員	実現可能性として、コミュニティ・スクール的な活動で実施できないものは実施できないとはっきりとさせた方がよい。その場合、なぜできないかを焦点化し、分散し、例えば委員の召集の案件を防災だったら防災に限り議論を重ねたらどうか。また、会議の方法もこのように一同に会すのではなく、Skypeのような遠隔地でも参加できるようなツールを取り入れている団体もあるので、検討してほしい。
望月委員	例えば、学校運営協議会のように一同に会すのではなく、地域連携部会や学校評価部会のように、小数で集まり議論したことを、このような全体会で図る仕組みにしてはどうか。
三辻委員	学校運営協議会の開催回数については、今後事務局で再検討してほしい。開催回数を減らす場合は、必ず委員への連絡や情報の提供を徹底していただきたい。

## 8 閉会挨拶

- ・ 教頭より、閉会の挨拶